

はじめに

本書は大学入学共通テスト（以下共通テスト）・国語の第3問（実用的文章・資料）対策のための問題集として編集されたものである。

I 共通テスト第3問（実用的文章）の出題傾向

共通テストの第3問は、一人の生徒が、あるテーマについて、複数の資料（複数の図表と複数の文章）を参照しつつレポートを作成するなど、何らかの言語活動を行うといった形式をとることが予想される。

そして、①図表から読み取れる内容について問う問題、②文章と図表との関係について問う問題、③複数の資料にわたる内容について問う問題、④レポートに対する助言や補足の内容について問う問題、などが出題されることが予想される。

II 共通テスト第3問に対処するために求められること

図表と文章を組み合わせた複数の資料から出題されることが予想される第3問に対処するには、①各図表から必要な情報を正確に読み取ること、②各文章から必要な情報を正確に読み取ること、③それらの情報を相互に関連づけて理解することが求められる。

III 本書の構成

本書は基礎編と発展編からなるが、基礎編では図表つきの一つの文章を題材とし、図表から必要な情報を正確に読み取る練習、それらの情報と文章から読み取れる情報とを関連づけて理解する練習を行う。そのうえで、発展編では、複

数の図表と複数の文章を組み合わせた資料を題材とし、①各図表から必要な情報を正確に読み取る練習、②各文章から必要な情報を正確に読み取る練習、③それらの情報を相互に関連づけて理解する練習を行う。

IV 第3問を解くときの注意点

- (1) グラフなどを読み取るとき、見た目だけで判断するのではなく、何についてのグラフであるかを確認したり、数字や文字などの情報も確認して慎重に判断することが大切である。
- (2) たとえばレポートやレポートの目次、構想などが提示され、そこに設定された空欄を補うといった問題が出題されることが予想される。その場合、文章や図表などの資料だけでなく、空欄前後の文脈も踏まえて、各選択肢が空欄を補うのに適当か否かを判断することが大切である。
- (3) たとえば一人の生徒が書いたレポート、あるいは書こうとしているレポートなどに対する「助言」や「補足」の内容として適当であるか否かを問う問題が出題されることが予想される。その場合も、文章や図表などの資料を十分に踏まえて判断することが大切である。
- (4) 複数の図表や複数の文章を組み合わせた題材から出題され、これを短時間で解くことが求められる。図表の内容などを細かく検討している時間は時間が足りなくなってしまう可能性があるため、全体の概要を確認したら、問題に関連する情報だけを押さえて要領よく判断していかなければならない。練習を積むことでそのような要領を身につけることが大切である。

目次

〔基礎編〕

第1問 貧困と女性

岩間暁子「家族・貧困・福祉」……………6

第2問 食料自給と食品ロス

伊藤智・米虫節夫「食の安全と持続可能な食料自給を目指して」……………14

第3問 世代間ギャップの縮小

土井隆義「つながりを煽られる子どもたち」……………22

〔発展編〕

第4問 女性の働き方

宮崎勇・本庄真・田谷禎三「日本経済図説」・本田由紀「『日本』ってどんな国？」……………28

第5問 若者に特徴的な新たな消費形態

酒井崇匡「トキ消費」……………39

第6問 日本人の方言・共通語意識の地域差

岩淵悦太郎「共通語」・井上章一「関西人の正体」……………48

第7問 日本の高校生の自己意識

榎本博明「自己肯定感という呪縛」……………58

第8問 森林利用の現状と可能性

三俣学・齋藤暖生「森の経済学」・奥山洋一郎・茂田和彦「学校林の歴史と現況」……………67

・若者は、「理美容・身だしなみ」、「交際（他人との飲食を含む）」、「ファッション」、「通信（電話、インターネット等）」、「スポーツ観戦・映画・舞台鑑賞等」、「参加型のイベント（音楽／グルメフェス、コンサート、ファンイベント等）」、「有名人やキャラクター等を応援する活動（グッズ購入等）」にお金をかけている人の割合が、全体より高い。

・右にあげたもののうち、「参加型のイベント」、「有名人やキャラクター等を応援する活動」については、それぞれ[文章]のa、cに指摘されている。

図表2「その時・その場でしか得られない体験をしたい」かどうか、という問への回答の割合（年齢層別）

・「とても当てはまる」という回答の割合が最も高いのは10歳代後半で約29%、次に高いのは20歳代で約23%である。

・「とても当てはまる」という回答と「ある程度当てはまる」という回答の合計では、10歳代後半が約64%、20歳代が約63%であり、他の年齢層ではいずれも50%以下、全体が約36%であるのと比べて、若者が際立っている。

図表3「今しかできない参加型の体験やコンテンツにお金を使う」人の割合（年齢層別）

・「とても当てはまる」という回答の割合が最も高いのは10歳代後半で約13%、次に高いのは20歳代で約12%である。

・「とても当てはまる」という回答と「ある程度当てはまる」という回答の合計では、10歳代後半が約29%、20歳代が約

35%であり、20歳代が最も高い。30歳代は約24%だが、その他の年齢層ではいずれも20%未満であり、全体が約15%であることと比較しても、若者に特徴的なものと言える。

・右の傾向は、[文章]のdに指摘されている。

図表4「有名人やキャラクター等を応援する活動にお金を使う」人の割合（年齢層別）

・「とても当てはまる」という回答の割合が最も高いのは10歳代後半で約23%、次に高いのは20歳代で約18%である。

・「とても当てはまる」という回答と「ある程度当てはまる」という回答の合計では、10歳代後半が約42%、20歳代が約32%であり、他の年齢層ではいずれも20%未満、全体が約10%であるのと比べて、若者が際立っている。

・右の傾向は、[文章]のcに指摘されている。

【資料Ⅱ】トキ消費について

酒井崇匡「トキ消費」（広告朝日 二〇一八年）の一節。

〔モノ消費からコト消費への変遷〕

・一九九〇年代後半から本格化した。

・背景として、生活が豊かになりモノが行き渡ると、所有欲を刺激するアプローチでは消費が喚起されにくくなり、モノを売るにしても体験欲を刺激することが重要になったことがあげられる。

〔トキ消費というスタイル〕

・トキ消費は現在広がりつつある、新しい消費スタイルである。

・背景として、スマートフォンが登場し、特に二〇一〇年代に入ってから、体験に関する情報がSNSなどに氾濫すると、誰でも疑似体験ができるようになり、体験への欲求が生まれにくくなっていくことがあげられる。

・トキ消費の例として、ハロウィーンの際に仮装した人々が渋谷のスクランブル交差点周辺に自然と集まり見知らぬ人とハタタッチを交わす行動や、メンバーの成長プロセスを楽しむアイドルグループの応援、映画を製作・公開するためのクラウドファンディング（主にインターネットを通じて不特定多数の人から資金を集める方法）への出資がある。

・右の例に共通する、近年ヒットしたものの特徴は「非再現性」、「参加性」、「貢献性」であり、トキ消費はこれらの特徴を共通の要素としている。

設問解説

問1 「資料1」の「文章」と「図表1」～「図表4」の内容について

問う問題

(i) 「文章」の下線部のうち、「図表1」～「図表4」では省略されているものを問う問題

「文章」の下線部a～eと「図表1」～「図表4」の関係については、「資料解説」の「資料1」で示した通りであるが、改めて確認しておく。

a 「参加型のイベント（音楽／グルメフェス、コンサート、ファンイベント等）」にお金をかけている人の割合は、若者が全体よりも高くなっている

・「図表1」のうち「参加型のイベント（音楽／グルメフェス、コンサート、ファンイベント等）」を見ると、全体が6・6%であるのに対し、10歳代後半は16・3%、20歳代は16・5%であり、aの内容は「図表1」に示されている。

b 「推し活」は、近年、若者が長時間利用しているSNSによって、応援する人同士のみならず、応援する人と応援される人のつながりも強くなっている

・「推し活」とSNSとの関係や、応援する人同士、また応援する人と応援される人のつながりを示す図表はない。bは省略されているものである。

c 「有名人やキャラクター等を応援する活動（グッズ購入等）」にお金をかけている人の割合は、若者が全体よりも高くなっている

・「図表1」のうち「有名人やキャラクター等を応援する活動（グッズ購入等）」を見ると、全体が6・6%であるのに対し、10歳代後半は32・9%、20歳代は22・2%である。cの内容は「図表1」に示されている。

・「図表4」を見ると、「とても当てはまる」という回答と「ある程度当てはまる」という回答の合計は、全体が10・3%であるのに対し、10歳代後半は42・1%、20歳代は31・8%である。cの内容は「図表4」にも示されている。

d 「今しかできない参加型の体験やコンテンツにお金を使う」に「当てはまる」（「とても当てはまる」又は「ある程度当てはまる」の計）と回答した人の割合は、10歳代後半